

和合

No.154
2023. 9. 1

題字：三浦修次



主な掲載記事

- 和合の里あれこれ……………2
- 我が家の民俗行事……………3
- わたしが描く和合の里…5
- 畑にこんにちは……………6
- 人生100年時代……………7
- 和合の里 INFORMATION…8
- はやぐおっきぐなれの～！…3
- よつばっこ通信……………4
- わたしから見た和合の里…5
- 和合の里の取り組み……………6
- わごう駐在所……………7

和合の里 あれこれ

【小出新田編】

①小出新田の由来

明暦3年(1657)、小出新田村創基の鎮守として、八幡神社の社殿を太田名右衛門が建立したと伝えられています。また、松山町史年表によると、万治元年(1658)に飽海郡山寺村から分村したともいわれています。明治23年(1889)4月1日に飽海郡から東田川郡に編入されました。(余目町史(上巻)より)

かつて最上川は、米や紅花の運び出しや北前船からの物資の輸送など、酒田の港と内陸をつなぐ舟運として利用されてきました。最上川が現在の小出沼を流れるようになると、内陸との交流が盛んになり、船着場として大いに賑わったそうです。

八幡神社では毎年5月3日に例祭が開かれます。新型コロナウイルスにより神輿行列などのメイン行事は中止を余儀なくされましたが、今年は4年ぶりに例年どおりに行われ賑わいを見せたそうです。子どもたちが法被を着て村を元気に練り歩き、神楽舞も行われました。



②小出沼農村公園

鳥海山を望む小出沼農村公園は、春には美しい桜を楽しむことのできる名所としても知られ、お花見に訪れる地元の方々に賑わいます。農村公園にはファミリー牧場が隣接されており、平成6年(1994)から運営されています。5月から11月にかけて、30頭ほどのヒツジやヤギが放牧されています。動物たちとふれあうことができるこの牧場は子どもたちにも人気です。秋から冬にかけては、ハクチョウやカモなどの渡り鳥の姿を楽しめます。



③阿部亀治翁顕彰祭

ササニシキやコシヒカリのルーツとなる「亀ノ尾」を作り出した阿部亀治は小出新田の生まれです。亀治は新しい稲作技術の導入にも積極的で、稲作技術の発展に大きく貢献しました。毎年9月には、八幡神社境内の石碑の前で顕彰祭が執り行われます。有志の参加者で熊谷神社を参拝するなど、その功績が語り継がれています。平成30年(2018)には阿部亀治翁生誕150年を祝して記念事業が行われました。



パパとママにインタビュー

はやぐおっきぐなれの～!



ちょうなん かの
長南 椛乃ちゃん

(沢新田)

令和4年9月23日生まれ

パパ：直樹 ママ：清菜

- 1 色鮮やかな「椛」のように、彩り豊かな人生を歩んでほしい。
- 2 RADWIMPSの『正解』。この曲を流すと、集中して聞き出します。猫を飼っているので、大好きで、見つけると「にゃんにゃん!」と指さします。
- 3 「長南椛乃ちゃ～ん。」「はい!」ができるようになったこと。「う～」とうなり声で手を上げてくれます。
- 4 飼い猫に近づきちょっかいをかけてしまい、ひっかかれてしまったこと。とても焦りました。
- 5 自分のやりたいことをやって、のびのび育ててね。(パパ)一緒にカフェや買い物に行こうね。大好き♡(ママ)



Q1 名前の由来は? Q2 今一番の興味やはまっていることは? Q3 最近記憶に残ったエピソードは?
Q4 パパママの失敗談(子育てあるある) Q5 パパママからのメッセージ

我が家の民俗行事 【もり供養】



庄内地方盆明けの二十日過ぎから、死者の霊が留まると考えられている森、あるいはモリノヤマと呼ばれる里山に花や供物を持参し、諸道を巡拝し、死者の供養を行う習俗である。

死者の体は墓地に残るが、霊は死後一定の期間は近くの山に留まり、歳月の経過につれて汚れが清まると、さらに高い山にのぼり、完全に浄化すると、祖霊(先祖の霊)となり神格化され、子孫を守ってくれるといわれている。



余目第四幼稚園

よつばっこ通信

七夕祖父母参観がありました♪



7月7日に七夕祖父母参観を行いました。おじいちゃんおばあちゃんと一緒に短冊や七夕飾りを作って楽しみました。各クラスのミニミニ発表会も大成功！



短冊を作っているよ！



年中児（さくら組）の発表の様子です！「おひさまになりたい」の歌と、「ツバメ」の踊りを発表しました♪



年長児（ぱんだ組）の発表の様子です！「にじ」の歌と、「ヤングマン」の踊りを発表しました♪

プール遊び楽しいね♪



プール遊びを思い切り楽しんでます！少しずつ水と仲良しになってきましたよ♪小学校のプールも貸していただき、大きなプールに入る経験もできました！



余目第四小学校 6年生
わたしが描く和合の里



ぼくが描く「和合の里」は、明るくあいさつができる「和合の里」です。そのようにするためには、自分からしっかりと明るくあいさつをしていきたいし、大きな声で言っていきたいです。



ぼくが描く「和合の里」は、いつまでも笑顔あふれる、元気いっぱいの和合の里です。地域の人に、自分から進んであいさつをして、どんどん元気や笑顔が増えていく和合の里になるように、これからもいろいろと意識していきたいです。



ぼくが描く「和合の里」は、笑顔の多い和合の里です。そうするために、人がいやがることはせず、やってもらってうれしいなど思うことをしたいです。また、だれにでもあいさつをすれば、そのような地域になるとと思います。



わたしが描く「和合の里」は、自然が豊かなきれいな地域です。四小の周りにはたんぼがっばいで、緑が多いです。それを守るためにわたしががんばりたいことは、ゴミを拾うなどすることです。そうすることで、ずっときれいな場所であってほしいと思います。



わたしは、庄内にいっぱいある山やたんぼの緑がとても好きで、心地よいと思っています。これからも、明るくて、元気のいいあいさつがあふれる、自然豊かで住みよい和合の里であってほしいです。

わたしから見た
和合の里



前庄内町立余目第四小学校
学習支援員 石崎 喜美子

偉人「阿部亀治」を生んだ和合の里

み

なさん、こんにちは。余目四小学区（和合地区）の皆様には、平成十六年から六年間と令和二年から三年間、大変お世話になりました。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、「わたしから見た和合の里」と言えば、まず思い浮かぶのが「阿部亀治」です。初めて余目四小に赴任した年、四年生を担当し、地域のことを調べる中で亀治の功績を知り、この和合地区にはこんなに素晴らしい方がいらしたのだ、と感銘を受けました。そして、その年の秋、子どもたちと一緒に「阿部亀治物語」を劇にして発表しました。子どもたちも亀治のことを心に刻み、誇りに思ってくれていることと思います。

又、「和合の広場」では、コロナ禍で大変な中、たくさんの方々が子どもたちを見守り育ててくださっていること、大変な難く感じておりました。今後も、和合の里の発展と子どもたちの健やかな成長を祈念しています。

畑にこんにちは！

はじめ
佐藤 一さん（西袋）



セミが鳴き始め夏の始まりを知らせたころ。今回お邪魔させていただいたのは、西袋の佐藤一さんの畑です。畑では様々な作物が栽培されていました。キュウリ、ショウガ、レタス、トマト、ベニバナ、ダリア、フヨウ、キク、ブドウ、イチジク、ブラックベリー。そのほかにも野菜や花、果物など、まだまだ多くの種類の作物を栽培されています。

その中でも珍しいものがあると言って見せて下さったのは、膝丈くらいの木のような植物。こちらはコンニャクだそうです。収穫した手作りのコンニャクなどを食べながら、晩酌をするのが楽しみだと語ってくれました。苦労しているのは次々に生えてくる雑草や、作物の病気。時には育てていた作物が虫に食われてしま



こちらがコンニャクです。

まう事も。しかし、収穫しておいしいものを食べることを楽しみに毎日続けているのだそうです。

畑を始めたのは今から17年前。定年をきっかけに山形に戻ってきたそうです。それからは近所の方から教わるなどしながら畑のお世話をしています。佐藤さんが野菜の栽培や力仕事を担当し、奥様が主に花を育てています。奥様とは一緒にテニスを楽しんだりすることもあるそう。佐藤さんは溪流釣りや登山に行くのが趣味だそうです。雨が降ったときには読書や映画鑑賞をしながら過ごしていると話ししてくれました。

秋になる頃には畑のイチジクが収穫期を迎えます。奥様の好物でもあるイチジクはジャムにして食べるのがおいしいそうです。これからの収穫が楽しみです。今回はお話を聞かせていただきありがとうございました。

和合の里の取り組み



庄内町亀ノ尾の里資料館 第103回企画展「和合の里のお宝展」

和合の里にあった旧家（相馬家、渡部利右衛門家、奥山重右衛門家）ゆかりの資料を展示しています。和合の里に伝わる宝物をご鑑賞ください。

- ◆期 間 / 11月26日（日）まで
- ◆時 間 / 午前9時00分～午後5時00分（入館は午後4時30分まで）
※9月14日（木）、11月7日（火）は清掃のため午後1時00分開館
- ◆入館料 / 無 料
- ◆問合せ / 庄内町亀ノ尾の里資料館指定管理者 和合の里を創る会事務局
（余目第四まちづくりセンター「和合館」内） TEL44-2162

人生100年時代

「居場所づくり

～あなたの“やってみたい”が地域の元気に～

庄内町保健福祉課
高齢者支援係
ひなた ゆい
日向 唯



町では、人と人が繋がる場として、「居場所」づくりを進めています。

○「居場所」ってどんなことをするの？

「いきいき百歳体操」などの体操に限らず、レクリエーション、茶話会など、活動はなんでもかまいません。活動事例として、活動内容を決めずに場所を自由開放して集まった人とおしゃべりしながら趣味活動などを楽しめる場や、趣味の料理を活かして料理屋を営みながら集まってくる人に開放している場などがあり、様々な形の居場所が増えています。

○「居場所」ってどんな効果があるの？

- ・交流が生まれ、人と人との結びつきができる
- ・仲間や友達ができ楽しみが増える
- ・自分の役割ができると生きがいになる
- ・顔の見える関係性が防犯になり安心安全につながる
- ・フレイル予防になり、健康寿命を延ばすことや心の健康を保つことにつながる
- ・困った時に相談することができる場として、支え合いのしくみにつながる

町内や近隣の活動事例等、居場所づくりについて聞いてみたいことがありましたらお気軽に高齢者支援係（電話0234-43-0490）までお問合せください。

※フレイル：健康に暮らしていた状態から、年とともに活動能力がじわじわと低下し、身体的、精神的、社会的に虚弱になること



庄内警察署
後藤 紘
(第四学区担当)

わごう駐在所

～庄内警察署からのお知らせ～

キノコ採りでの遭難防止！

秋になるとキノコ採りで入山される方が増え、道迷いや滑落による山岳遭難の発生が予想されます。山岳遭難や事故を防ぐため、下記のルールを守りましょう。



～ 遭難しないための心掛け～



- ① 慣れた山でも家族等に行き先を必ず告げて、複数名で入山しましょう。
- ② 携帯電話を持って行き、GPS機能を有効にしましょう。
- ③ 道に迷ったら来た道に戻り、分からなければ見晴らしの良い場所で救助を要請しましょう。
- ④ 急斜面は滑落しやすいので、ヘルメットや命綱を使用しましょう。
- ⑤ 食料や水のほか、天候の急変に備えて雨具等を準備しましょう。
- ⑥ クマ鈴、ホイッスル（警笛）、ラジオ等を携行しましょう。

和合の里あるき健康ウォーキング 2023



昨年好評いただいた「和合の里あるき健康ウォーキング」を今年も開催します。和合の里に設定された4つのコースの中から選んだお好きなコースを歩いて回り、歩いた距離数に応じて景品をご用意しております。

開催期間は9月16日(土)～10月15日(日)。余目第四まちづくりセンター「和合館」で参加申込を受け付けております。

詳しくは、9月1日発行の「広報しようない」の折込みチラシをご覧ください。

ふれあいホームわごう 「虫の世界」

7月28日、ふれあいホームわごうで虫についてのお話を聞く会がありました。第四地区の民生児童委員のボランティア活動で毎年夏休みに開催しています。1年生から6年生まで38名の児童がお話を聞きました。

「虫の世界」は、今回で3回目。講師は、前田野目にお住いの門脇まゆさんです。今年は、身近な虫、ハチについてお話を聞きました。「ハチが黄色と黒のしましまなのは、毒を持っていて危険だということを他の生き物に知らせるためだよ。」などとハチの種類や特徴についてイラストや写真を見ながら教わりました。

お話の後は、実際にスズメバチの巣を割って見せてもらったり、先生が集めた虫の標本を見たり、顕微鏡で蝶々の羽がどのようにになっているのかを観察するなど、虫について関心を深めていました。



便利屋わごう スタッフ研修会

和合の里を創る会環境福祉部会(部会長 佐藤文治)は7月28日、便利屋わごうスタッフ研修会を開催しました。移動支援を安全・安心に行うのが狙いで、やまがた福祉移動サービスネットワーク代表の本間博さんを講師に、運転操作・車輛整備・健康面及び持続性のそれぞれのリスク軽減のあり方について学びました。特に運行前の点検は、ブレーキ、タイヤ、ライト、燃料の4項目を必ず確認すること等の講義のあと、運行に関する演習で車の視覚、利用者を乗せた際の運転、絶対に避けたい大回り左折について、お話しされました。

編集後記

このたび初めて地域情報誌「和合」の担当をさせていただくことになりました。右も左もわからない状態から、取材や原稿の執筆などをこなし、発行へとこぎ着けました。協力いただいたみなさんの支えに感謝します。最後に、みなさんに楽しんでお読みいただければ幸いです。

